

行政視察報告書

平成29年 7月18日

会 派 名 江政クラブ

会派代表者 河合 正猛

(参加者：河合正猛、伊藤吉弘、藤岡和俊、幅 章郎、尾関 昭)

行政視察の結果について、次のとおり報告します。

①

年 月 日	平 成 2 9 年 7 月 1 1 日 (火)
視察時間	午後2時～午後4時
視 察 先	北海道函館市
視察項目	中小企業振興基本条例の制定について

②

年 月 日	平 成 2 9 年 7 月 1 2 日 (水)
視察時間	午後1時15分～午後3時15分
視 察 先	青森県青森市
視察項目	青森市清掃工場について

③

年 月 日	平 成 2 9 年 7 月 1 3 日 (木)
視察時間	午前9時～午前11時
視 察 先	青森県弘前市
視察項目	弘前型スマートシティ構想について

④

年 月 日	平 成 2 9 年 7 月 1 3 日 (木)
視察時間	午後1時15分～午後3時15分
視 察 先	秋田県大館市
視察項目	消防団の充実強化に係る様々な取り組みについて

⑤

年 月 日	平 成 2 9 年 7 月 1 4 日 (金)
視察時間	午前9時～午前11時
視 察 先	秋田県能代市
視察項目	学力向上の取り組みについて

行政視察報告書

①

年月日	平成 29 年 7 月 11 日 (火)
視察時間	午後 2 時～午後 4 時
視 察 先	北海道函館市
視察項目	中小企業振興基本条例の制定について
■目的 中小企業振興基本条例制定の経緯・背景から問題点・課題と今後の展望について調査し、江南市において中小企業振興基本条例を策定へむけての参考にします。	
■内容 函館市では、地域の中小企業の振興を行政の柱として明確にし、自治体の政策の方向性などを示すことを目的に、この条例を制定されました。 ＜4つの基本理念（第3条）＞ 中小企業が多様で活力ある成長発展 ①創意工夫 ②経営の改善・向上 自主的な努力の促進 ③経済的社会的環境の変化への円滑な対応 ④市、中小企業者等市民の相互理解 ＜6つの基本方針（第7条）＞→予算化の例 ①経営の革新創業の促進→若者向けの創業支援事業 ②新技術等を利用した事業活動の促進→研究開発事業委託料等 ③人材の育成・確保→IT人材確保セミナー開催経費 ④経営基盤の強化→企業立地促進条例補助金 ⑤連携の促進→北海道中小企業総合支援センター負担金 ⑥地域資源等による産業の発展・創出→北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区推進費 条例制定へ向けて各経済団体からの意見を聞く中で、少子高齢化や人口減少、人材の確保などの課題が出されたそうです。特徴としては、IT企業を誘致したり、人材不足をITやAI技術で補ったりすることに力を入れておられました。	
■所感 昨年度函館への観光客は過去最大となる560万人でしたが、ホテルなどでは人手不足だったようです。IT企業の誘致に力を入れているのは、公立はこだて未来大学の学生が札幌や東京に就職してしまい、函館市内に就職できる場所を確保することの狙いもあるそうです。	

行政視察報告書

②

年月日	平成 29 年 7 月 12 日 (水)
視察時間	午後 1 時 15 分～午後 3 時 15 分
視 察 先	青森県青森市
視察項目	青森市清掃工場について
■目的 青森市ごみ処理施設建設時の経緯から、諸問題や課題解決の取り組み、業務の運営体制や経費等について調査し、江南市中般若町北浦地区に建設予定の新ごみ焼却施設の参考にします。	
■内容 整備事業の背景として、既設の清掃工場は、老朽化に伴う維持修繕費の増加や突発的な故障による機能停止が懸念され、新ごみ処理場の早期の建設が望まれる状況になりました。このため、青森市では平成 18 年 3 月に青森市廃棄物循環型社会基盤整備事業計画を策定し、新ごみ処理施設の更新の必要性を鑑み、物質やエネルギー回収に重点を置いた建設を計画しました。 青森市は、新たなごみ処理施設の設計・施工を行う建設業者と、長期間にわたり運転、点検・検査、補修及び更新などを行う運営事業とを合わせ、一体的に民間事業者が行う手法(DBO方式:公設民営方式)により事業を実施しました。 特に可燃ごみ処理施設は、処理方法を 1 つに絞らず、『ストーカー炉+灰溶融炉方式、分離式ガス化溶融炉方式及び一体式ガス化溶融炉方式のうち、民間事業者が提案する方式』とし、年 84,567t の可燃ごみを処理でき、破碎後可燃残渣を年 2,960t とすることができるなら、処理方式にはこだわりませんでした。 結果、6 つのグループから応募があり、最終的には予定価格(建設費+運営費)37,271,450,000 円に対し、総合評価により 19,425,000,000 円で入札したグループが落札しました。予定価格の 52%です。そのうちの建設費は 11,819,850,000 円で、1 日に 300t(150t×2 炉)の処理能力があるため、t あたり約 4,000 万円でできたこととなります。	
■所感 最近できた他のごみ焼却施設の建設費は、t あたり 7,000 万円～8,000 万円とされていることから考えますと、驚異的に安く建設ができたこととなります。価格がすべてではありませんが、江南市での建設予定の新ごみ焼却施設の参考にさせていただきます。	

行政視察報告書

③

年月日	平成 29 年 7 月 13 日 (木)
視察時間	午前 9 時～午前 11 時
視 察 先	青森県弘前市
視察項目	弘前型スマートシティ構想について
■目的 弘前型スマートシティ構想の策定の背景と目的から今後の展望について調査し、江南市における第 6 次総合計画策定にあたっての参考にします。	
■内容 東日本大震災をきっかけに（電気や暖房用燃料等の途絶による生活への大きな影響を経験）、エネルギーの自給率の向上や能率的な利用の重要性を強く認識されたそうです。 そこで、再生可能エネルギーの効率的な利用や I C T の活用により、『災害に強く、市民が暮らしやすい魅力ある低炭素・循環型のまち』を実現し、それを次世代に継承するために、平成 25 年 3 月に『弘前型スマートシティ構想』を『豊かな資源を活用した世界一快適な雪国 弘前市～次の世代を担う子供たちが安心して活躍していけるまちをめざして～』と題して策定し、実現に向けた取り組みをされてきました。 25～28 年度のフェーズ 1 で、既存技術の導入と先端技術の可能性調査を行い、構想改定をして、この 29 年度～32 年度をフェーズ 2 として、既存技術・先端技術の導入と革新技术の可能性調査を行っていきます。 この国や県が行うような大事業を市で行おうとしている発想の壮大さが素晴らしく、スマートシティ構想を推進し、雪が降っても快適に暮らせるまちをつくるのが、最大の課題である人口減少を食い止め、弘前市の持続的発展につながるものとの考えに基づいた計画となっています。	
■所感 江南市でも人口減少問題は大きな課題であり、食い止めるにはどのようなまちづくりをしていかなければならないのか、さらに大きな視野を持って考えていく必要があると感じました。	

行政視察報告書

④

年 月 日	平 成 2 9 年 7 月 1 3 日 (木)
視察時間	午後 1 時 1 5 分～午後 4 時
視 察 先	秋田県大館市
視察項目	消防団の充実強化に係る様々な取り組みについて
■目的 消防団の充実強化に至った背景および様々な取り組みの内容や今後の展望について調査し、江南市の消防団の充実強化の参考にします。	
■内容 (1)機能別消防団…大館市内にある秋田看護福祉大学の学生による機能別消防団があります。 (2)大館市消防団応援の店…消防団員の福利厚生、満足度の向上や新規消防団員の確保、そして、地域の活性化を目的に 27 年 2 月から始めました。現在 12 店舗です。 (3)成人式会場での団員募集 PR…大館市消防 0B 会から寄贈されたマスコットキャラ『ハッチ君』の着ぐるみを着て、成人式で団員募集のパンフレットを配りました。 (4)学生消防団活動認定制度…3 年以上消防団活動をした大学生等に、学生消防団活動認定、証明書を交付し、就職活動を支援しています。 (4)市公用車による消防団員募集 PR…消防団員募集ステッカーを予備も含め 200 枚作成し、市公用車 100 台に貼付し、広く市民にアピールしています。 (5)大館市消防団協力事業所表示制度…消防団に協力している事業所やその他の団体に協力事業所である事を証する表示証を交付。現在 15 事業所、158 名が所属。 (6)消防庁消防団協力事業所表示制度…(5)の事業所のうち、消防庁の基準に適合した場合(団員が 5 名以上所属)、消防庁からも表示証が交付されます。現在 3 事業所。 (7)入団年齢廃止、定年延長…採用年齢の上限を廃止し、定年を 65 歳まで延長。 その後、木造での世界最大級ドームである『ニプロ ハチ公ドーム(大館樹海ドーム)』を視察しました。秋田県が建設し、大館市へ無償貸与され、指定管理者が運営しています。今年度からネーミングライツが導入され、年間 330 万円でニプロに決まりました。	
■所感 平成 3 年に女性消防団を発足させるなど、消防団員を増やす多くの取り組みをされています。しかし、定員 1 1 8 0 人に対し現在団員は 1 0 8 6 人です。8 割が被雇用者で、市の職員は 9 人でした。江南市では市と農協の職員の割合が多いため、市と農協以外からの消防団員を増やす取り組みが必要と思います。	

行政視察報告書

⑤

年月日	平成 29 年 7 月 14 日 (金)
視察時間	午前 9 時～午前 11 時 30 分
視 察 先	秋田県能代市
視察項目	学力向上の取り組みについて
■目的 全国学力・学習状況調査（通称；全国学力テスト）で常にトップクラスにいる秋田県、さらにその秋田県の中で平均を上回っている能代市における学力向上に向けた取り組みを調査し、本市の教育の参考にしたい。	
■内容 昭和 31 年実施の全国学力テスト(4%抽出)では、秋田県は小 6 の国語・算数と中 3 の国語が全国最下位、中 3 の数学が下から 2 番目だったそうです。全国最下位という現実をしっかり受け止め、反転へのバネにし、徐々に学力向上に向けた情熱、覚悟が湧き上がっていったそうです。しかし、平成 12 年度実施の県教委の学習状況調査では、『100-30×3』（小 5）の正答率が 56.2%で、半数近くが解けませんでした。『1 個 30 円のお菓子を 3 個買って、100 円出すとお釣りはいくらか』の意味が分からない児童が多数で、児童生徒へ学力をつけるという使命を教員が果たしていないのではないかと教育関係者に大きな動揺を与えました。チーム秋田で取り組んできた結果、7 年後の平成 19 年に全国学力テストでトップクラスになり、同じような計算力を問う問題の正答率が 93.7%(全国平均 65.9%)になりました。要因は、学校と教員がやるべきことを粘り強く、あきらめずに、当たり前のことを当たり前に実践し、全県で積み上げた所産だそうです。子どもの心身・生活の安定とふるさと教育に力を入れ、生活の安定と学力はほぼ比例し、特に温かい人間関係ができあがっていればいるほど学習効果が上がることがわかり、そのアベレージの高さがトップクラスになる本質であり、その維持を支えているそうです。50 歳以上の教員が多く、その教員の退職後に今の教育力をいかに維持していくのが課題だそうです。 続いて、地場産業である木材を多用した能代市立第四小学校を視察しました。校舎は木造 2 階建(13 億 1021.9 万円)、体育館は木造一部 RC 造平家建(3 億 7585 万円)で、とても木の温もりが感じられ、教育環境としてとても良いと思いました。ちなみに、運動場も芝生でした。	
■所感 廊下ですれ違った子ども達は、とても明るく、元気にあいさつをしてくれました。能代市の学校教育の基本方針である『豊かな人間性を育む学校の創造』が実践されていると感じました。	